

令和6年度揖斐川町教育委員会事務事業点検評価・外部評価

外部評価書

揖斐川町教育委員会外部評価委員会

外部評価書

外部評価の総括

1 経過

令和6年度揖斐川町教育委員会事務事業点検評価・外部評価にあたっては、事務局（学校教育課・社会教育課）が主管する全194事業（学校教育課104事業、社会教育課90事業）を対象に、実施状況を精査し事業に対する成果と課題を提言した。

外部評価を取りまとめるまでの手順は以下のとおりである。

- (1) 事務局は担当する事業について「教育委員会事務事業点検評価調書」を作成し、事業点検を行った。
- (2) 事務局は全事業のうち「令和6年度揖斐川町教育の方針と重点」を踏まえ、主要事業について実施した事業点検の結果を「自己評価書」に取りまとめた。
- (3) 揖斐川町教育委員会から委嘱を受けた外部評価委員3名は、事務局から提示された「教育委員会事務事業点検評価調書」並びに「自己評価書」に基づいて実施状況を精査した。
- (4) 外部評価委員会（2回）を開催、事務局からの意見聴取を経て「外部評価書」を取りまとめ提出した。

2 総論

- 具体的な数値等の成果指標を定め、学校教育・社会教育のその時々現状や課題、予算も踏まえたうえで各事業を工夫して実施し、客観的なデータと事業担当者としての概観とで総合的に評価がされており、その評価に基づいて次年度事業をさらに工夫改善していくという良好なサイクルが形作られている。評価を公開することで、広く町民等に揖斐川町の教育の実情を理解してもらったり、令和7年度から始まった、今後の学校教育の在り方を考える営みに生かしてもらったりすることを期待する。
- 年度当初に設定した「揖斐川町教育の方針と重点」に基づいて、学校教育では「活力ある学校経営」「確かな指導力を身に付ける研修」「学力の育成」を、社会教育では「『生涯学習』『家庭教育』等各種社会教育活動の推進」を柱として事業が実施され、児童生徒・保護者・住民の立場に立って取り組まれている。人口減少、児童生徒数の減少といった町情勢の変化を見据え、今後も長期の見通しをもって各事業が推進されることを期待する。
- 学校教育では、急速なデジタル化、個別最適な学び、協働的な学び、多様な個性や性自認の包摂といった今日的課題と、揖斐川町の伝統や文化といった地域特性の両者を大切に、総合的に教育が充実するよう事業の質を高め、各学校で特色ある教育活動として具体化されている。
また、児童生徒だけでなく、給食費無償化、修学旅行費補助など保護者に対する支援事業や、学校への人員配置といった教職員の業務を支援する事業など、学校教育に関わる各方面に事業を展開し、その充実を図っている。今後の揖斐川町の学校教育の方向を見据えながら、引き続き充実を図ることを期待する。
- 社会教育では、町民の生涯学習のニーズに対応する様々な事業を行い、成果を上げている。
令和6年度から本格的に運用が始まった「いびがわ地域クラブ」（中学校休日部活動の地域移行）は、外部指導者、保護者の協力を得ながら、円滑に事業が実施された。従来のスポーツ指導の在り方について問われている昨今の情勢も踏まえ、外部指導者の育成にも今後一層力を入れていただきたい。
また、「いびがわマラソン」をはじめとしたスポーツ振興の事業、各公民館活動をはじめとした生涯学習の推進事業など、町や各地区の特徴を生かして運営されている。今後一層、揖斐川町を活気ある町にしていくために、引き続き充実した内容での実施を期待したい。

区分	重点・力点	外部評価委員会による評価
学校教育	<p>全教職員が協力して活力ある学校経営をする。</p>	<p>「地域学び塾」は、事業開始から3年目となり、毎年度夏季の事業として中学生、地域住民に定着した。中学生の居場所づくり、学習保障だけでなく、教職をめざす大学生が講師として参加し、揖斐川町の学校教育に携わるという副次的な意義も見られてきている。今後もよりよい内容・方法等を常に検討しながら、事業の一層の充実を図られたい。</p> <p>学校施設・設備の整備については、多額の予算を伴う事業であるが、児童生徒の学習環境整備、安全保持、時代に即したICT化などは欠かすことのできないものであり、必須の事業である。各学校施設については、使用年数も長くなってきており、今後一層維持管理が困難になることが予想されるが、令和7年度に設置された「学校教育の在り方審議会」の審議の行方を視野に入れながら、長期的な展望で計画的に事業を実施していくよう努められたい。</p> <p>給食費、修学旅行費等の各補助などの保護者への支援事業は、揖斐川町は手厚く、保護者の方からも好評価を得ている。今後も継続して実施されたい。</p>
	<p>一人一人の夢の実現に向けたくましく生き抜いていくための基盤となる学力の育成を図る。</p>	<p>児童生徒の県外・海外派遣事業は、将来の揖斐川町を担う児童生徒たちが見識や考え方を広げ、大きな成長を得る機会となっている。引き続き、児童生徒の社会性・人間性を育む事業として継続しつつ、児童生徒数の減少を踏まえ、適切な派遣団員数を設定していくことも考えていきたい。</p> <p>少人数指導助手、教科専門指導員、スクール相談員等、学校を人的に支援する事業は、学校現場の常態的な人員不足が全国的に問題化する中、これからも必須である。今後も、一般の教員免許所持者への研修など、教育委員会としても人材の発掘に努められたい。</p> <p>特別支援教育の支援に係る、就学奨励費、支援員の配置などの各事業については、障がいの内容や、児童生徒の実態も多様化する昨今において、今後もニーズが高まっていくことが予想され、一人一人の様態に合わせた適切な支援を個別に講じていくために事業の一層の充実を図られたい。</p> <p>その他、教科学習以外にもさまざまな分野にわたって総合的に学校教育の充実を図る事業が実施されている。若者のネット依存などの問題も出てきている昨今、野外学習の事業はさらに重要になるであろうし、芸術鑑賞は予算内でその質を保持するために、学校合同で実施されるなど工夫されている。今後も児童生徒の上質な体験活動の場として継続されたい。</p>
	<p>自己の課題を明確にし、主体的に研修を進め、確かな指導力を身に付ける</p>	<p>連携型中高一貫教育推進事業は、町内3中学校がすべて連携校となり、校種を超えて教育を連続的に営む意識が中・高の教員にも高まってきており、それぞれの学校での教科指導や進路指導に寄与している。今後も事業による教育効果について検証しながら、成果と課題を踏まえたうえで取組内容の一層の充実を図られたい。</p> <p>指定研究発表事業は、少子化による学校の小規模化が進み、校内での教科部会・研究が難しい現状にある中、教員の学びの場としてますます重要な役割を果たしている。教員同士が学校の研究や実際の授業を見合い、教科指導等について互いに研鑽し合うことは、揖斐川町の学校教育全体の質の向上につながるものであり、児童生徒の成長に結びつくものである。今後も確実にこうした機会を確保し、教職員の資質向上に努められたい。</p>

	重点・力点	外部評価委員会による評価
社会教育(生涯学習・文化)	生涯学習の推進	住民主体の地区公民館活動を通して、自治意識の高揚と連帯感の醸成を図ることができている。軽スポーツ大会、盆踊り、地区運動会、公民館祭りなど地域ごとに活動が行われており、引き続き、公民館を「地域の絆」を深める場所として活かせる環境づくりを進めながら、地域住民が主体となって、持続可能な事業展開に努めていくとよい。
	家庭教育の推進	家庭教育は、これからの未来を支える子どもたちに重要な役割を果たすものである。地区公民館などが行う家庭教育の取組に、引き続き支援を望みたい。
	読書活動の推進	幼少期のうちに読書の楽しさを伝え、家庭での親の読み聞かせにより、子どもの読書習慣を育てることは、心の醸成に寄与する大切なことであると考え。 子どもの読書環境を整え、心豊かな成長を促進するためにも、引き続き子ども読書推進事業を実施されたい。
	青少年育成活動の推進	青少年の健全育成については、青少年育成町民会議を中心に、家庭・学校・地域社会が深く関わり合いながら、「街頭啓発」や「わが家のあったか約束」などの取組が行われている。青少年育成町民会議総会と大会では、小学生、中学生の発表が行われるなど、児童生徒の活躍の場が提供されている。町内の子ども的人数は年々減少している現状であるが、今後も関係機関・団体と連携を図りながら、地域の実情に応じた活動に取組、健全な青少年の育成を推進されたい。
	人権教育の推進	社会人権同和教育事業は、人権意識の向上や同和問題の正しい認識を図り、思いやりのある社会を形成するため、啓発活動が実施されている。事務の自己評価が低いことを抜きで、今後も人権教育事業の充実を図るとともに、関係機関と連携しながら、広報活動も展開するなど、研修等参加者の裾野を広げ、広く町民への啓発を図られたい。
	住民の文化活動の振興	町内の文化活動を支援することにより、「豊かな人間性と郷土愛を育むまちづくり」に寄与している。町文化協会を中心とした地域住民による自主的な文化活動の輪が更に広がることを目指し、引き続き支援を望みたい。 「アートいびがわ」などの町民参加型の文化活動を、今後も引き続き開催し、文化芸術振興を図られたい。
	文化財や伝統芸能の保存・伝承及び活用の推進	子ども歌舞伎など、無形文化財の保存・伝承は、教育資源・生活資源・観光資源として大変重要である。しかし、人口減少、少子高齢化が進むにつれ、後継者不足は喫緊の課題である。町としては、保存会等の団体への支援を継続し、発表の場の提供やPR活動、学術的な調査、後世に伝えていくための人材育成支援等を推進していくとよい。
	親しまれる社会教育文化施設の創意ある運営の推進	地域交流センターはなももは、生涯学習、文化芸術振興、観光交流の拠点として、より多くの方に利用していただけるよう、創意工夫して運営をしていただきたい。 いびがわ図書館では、施設内の木育広場に「カプラ」を常設している。今後も、子どもたちに木を好きになってもらい、自然との関わり方を積極的に考えられる豊かな心を養う取組を継続していくとよい。

	重点・力点	外部評価委員会による評価
社会教育（スポーツ）	地域スポーツの推進	町体育協会は、生涯スポーツ活動における中核的組織であるが、少子高齢化のため、構成員、団体の減少が加速している。今後も町内のスポーツ振興推進のため、引き続き支援は必要である。 休日の中学校部活動の地域移行が、「いびがわ地域クラブ」で活動を開始した。今後、各校の部活動、指導者、保護者と連携を図り、各種目1クラブに向けて3中学校の合同化を進めるとともに、町で1チームが見込めない種目クラブは揖斐郡での合同化を見据え、生徒のための活動継続を図っていくとよい。
	スポーツ施設や環境の整備充実	揖斐川健康広場、そしてトレーニングルームは、体づくり、健康増進、生活習慣病の予防など、生活の充実を求める利用者により安定的な施設利用となっており、老朽化した設備、機器の計画的な更新も含めて持続可能な維持を希望する。また、施設利用者を対象とした各種教室プログラムでは、今後も魅力ある事業展開を期待する。
	スポーツによる地域振興	1988年から開催しているいびがわマラソンは、フルマラソンコースの道路の一部が通行止めとなっており、ハーフマラソンのみの開催としている。ハーフマラソンの大会では、エントリー費やスポンサーの減少等により、大会運営は町からの補助金が必要な状況である。ランナーからはフルマラソンの復活を望む声も多く、新たなコース選定も模索している。町の魅力を発信し、地域振興やスポーツ振興を推進していくことが大切で、これは、町の一大イベントのいびがわマラソンが担う役割でもあることから、関係機関との協議も含めて、フルマラソンの復活を検討してもらいたい。

令和7年11月20日

揖斐川町教育委員会外部評価委員会

委員長 横山 隆光

委員 山本 泰喜子

委員 矢野 智